



葉っぱや土、空と雲。
ほかに特別な遊具はいらない。

住むひと、訪れるひと、そのだれもが異口同音に言うのは、「この町(湯梨浜町)のよさは、趣のある自然に恵まれていること」だ。

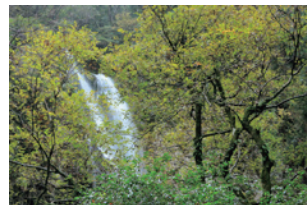
日本海がある、東郷湖がある、森がある、滝がある、いい空気があって美しい四季がある。すくすく育つ子どもたちを、こうした豊かさに親しんで過ごさせたい。そう考えるのは当然のこと。三村稚賀(わか)さんが気の合った仲間たちとスタートさせたあおぞら自主保育の会「木とねっこ」の主旨はまさにそこにある。

出身は兵庫県。「もともと自然や動物が好きでしたから……」、鳥取大学農学部で学んだ。在学中に子どもたちを相手の野外活動に情熱を傾けたのは、ごくあたりまえの流れだった。会を立ち上げたのは平成二十六年。みずからが二歳と二歳の子育て中の母だった。「おかあさん仲間が始めました」。みんなの波長が合った。就学前の乳幼児の野外活動、という規定以外ほかにどんな理屈も必要なかった。

ゲーム機など、人工的な遊具は置いていく。森の自然公園に入れば遊び相手はたくさんある。葉っぱや土や、木の実や鳥や、そして青い空と白い雲、こちよい風。子どもたちはすっかり森と同化し、のびのびと、そして懸命に遊ぶ。

「子どもって、つくづくすばらしい生き物だなあ、見ているとそのことをあらためて思います」。

あおぞら自主保育の会 木とねっこ
三村稚賀



ゆ
う
ゆ
う、
ゆ
り
は
ま